発刊にあたって

50周年記念事業企画委員会
委員長　品　川　正　治

経済同友会は昨1996年に創立50周年を迎えた。一つの大きな節目であった。

維新，終戦につづく第三の変革と言われる平成の改革がスタートを切ろうとする年，これまでの歴史の総括は決して生易しいものであり得ない。経済同友会の果たして来た役割，戦後この国の復興にはじまり，成長を実現し，飛躍をも達成するに当って，経済同友会に集った面々は，時代を如何に認識し，何に論議を集中し，どう国民に訴えて来たか。

これを深く掘り下げて，一つの歴史として世に問うと同時に，この平成の変革に当り，経済同友会は，どう変らねばならないか，新しいグランド・デザインをどう描くべきかを合わせて示さねば50年の総括にはならない。そう考えた結果，昨年４月，『戦後日本経済と経済同友会』なる書名で，岩波書店から経済史研究者を執筆者とする歴史研究書を公刊した。

従って，その総括は，編年体でもなく，活動実績も網羅されてはいない。

しかし経済同友会の活動のベクトルに気をとられて，活動のなまの記録を軽視することは許されない。設立趣意書からはじまって，歴代の代表幹事所見，年頭見解は言うに及ばず，経済政策，財政，政治，教育，社会問題，国際，外交問題に及ぶ全委員会活動の記録の保存と集約を図ることの重要なことは論を俟たない。

50周年を期してはじめられたこの仕事が実を結び，ここに『経済同友会50年のあゆみ』として届けることが出来るにいたった。

当初，尨大な資料の山を見て愕然とした。50年の歴史は長い。これを分類し，検索に便なるように整理し，年表とともに時代背景まで付け加え，これからの情報化時代にも対応し得るよう整理し得たのは，事務局全員の協力があったとは言え，主査・高橋史子さんの頑張りを功績の第一に挙げるべきだろう。

精一杯，ご活用を願い度い。

1997年４月